

主 題：主イエスと会う

聖書箇所：ヨハネの福音書 9章35－41節

私がイエス・キリストと出会ったのは、記憶する限り、小学校に入ってからです。教会学校でイエスの話を聞いたのが最初かなと思います。皆さんはいかがでしょう？初めてイエスの話を聞かれたのは何時だったでしょう？私のように幼いときに教会学校で聞かれた方もおられるでしょう。私自身知らなかったことですが、最近、受験生が教会で勉強をしているとき教科書を見せてもらおうと、世界史には思っていた以上にキリスト教のことが書かれていますから、ある人は授業で初めてイエス・キリストのことを聞いたと言われるかもしれません。また、ある方は大人になってから初めて教会に来て聞かれたかもしれません。そのときのことを思い出していただいて、最初にイエス・キリストはどんな方だと聞かれたでしょう？イエスはあなたにとってどのような方でしょう？

今日は聖書の中に記されているある一人の人物のことを見たいと思います。その人は生まれつき目が見えない人でした。その人がイエスと出会って、イエスによって目が見えるようになるということです。もし、そのことが今皆さんの目の前で為されたら、皆さんはどう思われるでしょう？「イエスさまはほんとうにすばらしいお方だ！」とイエスを称えることでしょう。でも、今日見ようとしている箇所には、盲目の人が癒されたのに、だれ一人、イエスを称えようとする人はいなかったのです。それとは反対に、イエスが癒されたのが安息日であったため、それは律法に反しているから、イエスは罪人であると言う人がいたのです。それはパリサイ人、律法学者と言われる人たちです。また、ある人は「確かに、目を癒されたことはすばらしい。でも、私はイエスとは無関係でいよう。」と思った人もいました。それは盲目を癒された人の両親です。なぜなら、イエスと認める者は会堂から追放するとされていたからです。

では、実際に、イエス・キリストはどのような方でしょう？あなたにとってどのような存在でしょう？イエスご自身がどのように言っておられるのか、今日はそのことを見て行きたいと思います。ヨハネの福音書9章の最後の部分です。9：35－41「：35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」：36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることができますように。」：37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」：38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。：39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」：40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」：41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」

この箇所から「イエスによって救われる者、また、イエスにあってさばかれる者」について見て行きます。皆さんに考えていただきたいことは、あなたはどちらの者であるか？イエスに出会って救われる者か、それとも、さばかれる者か、そのことをしっかりと考えていただきたいと思います。

☆イエスによって救われる者とさばかれる者

1. イエスはどのような方か？

二つのことを見ます。

1) イエスは救い主（メシヤ）である

9：35に「イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。」と記されていますが、イエスの優しさ、そして、積極的な働きを見ることができます。追放された彼を見つけ出したのです。町で偶然出会ったのではなく、彼を探し出し見つけ出されたのです。求める人には積極的に働きを為される救い主であることを見ることができます。そして、イエスはこの盲目だった人に対してこのように質問しています。「あなたは人の子を信じますか。」と。ここでイエスは「人の子」と言われています。「人の子」とは単純に「人間である子ども」ですが、イエスがこのことばを使われたのはそのことではなく、特に、福音書ではイエスご自身を呼ぶ名として「人の子」と言われているのを見ることができます。では、なぜ、「メシヤ」と言わないで「人の子」と言われたのでしょうか？この当時、一般的に用いられている「メシヤ」ということばには、政治的な色合いが強くあったからです。ローマ帝国から自分たちの国イスラエルを解放し再建してくれる救い主、王という人々の期待があったのです。

イエスはそのような存在としてこの世に来られたのではありません。だから、そのような政治的な意味におけるメシヤではないことを教えるために、混同を避けるために、当時、だれも使っていない「人の子」という表現を使われたのです。人々が考えている「救い主」ではないことを明らかにされようと

したのです。「人の子」という表現は旧約聖書にも記されています。ダニエル書 7：13－14「私がまた、夜の幻を見てみると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。：14 この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸言語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」、「人の子のような方が」という表現をイエスはご自身に当てはめて使われたのです。つまり、政治的なものではなく、霊的な救い主としてこの世に来られる、そして、それは主権者であり神であることを明らかにされたのです。

実際に、イエスがこのことばを使っている箇所は多く見ることができます。ヨハネ 3：13－15「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。：14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。：15 それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。」と、「人の子」は天から下って来て、また、天に上げられる、そして、「人の子」によって永遠のいのちを得ることができると言います。また、同じヨハネ 5：27には「また、父はさばきを行なう権を子に与えられました。子は人の子だからです。」とあり、「さばき」を行なう権が「人の子」にあること、それが自分自身であると言われています。そして、ヨハネ 6：26－27、これは5千人の給食という奇蹟があったときに記されている箇所です。「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。：27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」、イエスの奇蹟を見た人たちは確かにイエスを王にしようとしたと記されています。でも、その王は自分たちに都合のいい王でした。イエスといっしょにいるなら食べることに困らない…、だから、イエスを王にしようとしたのです。イエスは人々に食べ物を与えるために来られたものではありません。ここに記されている通り、「いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物」を与えるためです。「この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」とある通り、「人の子」こそ「救い主」であると記されているのを見ることができます。

このように、イエスはご自身を「人の子」と言うことによって、永遠のいのちを与える救い主であることを示されたのです。イエスご自身がこのように言われている箇所もあります。取税人ザアカイがイエスに出会った後、彼が変えられたときイエスが彼に言われたことばがルカの福音書 19：10に記されています。「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」。まず、イエスご自身ははっきりとご自身を救い主であると言われています。

2) イエスはさばき主である

また、イエスは「さばき主」であるとも言われています。それがイエスがどのような方であるかの二つ目のことです。9：39でこのように言われています。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。」と。「救い主」であり「さばき主」であることは調和するのでしょうか？全く正反対のことを言っています。「救う」とことと「さばく」とこと、どちらかが違っているのでしょうか？決してそうではありません。イエスがこの世に来られた本来の目的は「人々を救うため」です。ヨハネ 3：17に「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」とある通りです。

では、「さばきのためにこの世に来ました。」とどのように調和するのでしょうか？確かに、イエスがこの世に来られたのは人を救うためです。私たちすべての人間は罪をもって生まれ、神を神とせず自分勝手に歩んでいたのです。そして、その行き着く先は「永遠の滅び、永遠のさばき」だったわけです。それはすべての人が向かっているところだったのです。イエスはそのような私たちを救うためにこの世に来てくださり、本来、私たちが受けるべき罪の罰を受けてくださったわけです。これがイエスがこの世に来られた目的です。イエスの私たちの身代わり、贖いの十字架ゆえに、私たちすべての者に救いが差し出されたのです。例外はありません。

しかし、その救いを拒むならその人はどうなるでしょう？元々の人間の行き着く先、聖書が教えているように、永遠のさばきを受けることになります。その意味で、イエスは「さばき主」でもあると言えるのです。でも、さばくために来られたのではなく、救うために来てくださり、私たちの代わりに十字架の上で死んでくださったわけです。それゆえに、先ほどの続き、3：18に「御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。」と記されています。イエスが私たちにはっきりと教えてくださっていることは、ご自身は「救い主」であり、同時に、「さばき主」であるということです。それがイエス・キリストです。皆さんがこのイエスを前に置くとき、イエス・キリストが皆さんの前に現われたとき、あなたにとってイエスはどちらですか？「救い主」ですか？それとも「さばき主」ですか？みことばが教えるのは、人はそのどちらかでしかないということです。このことは各自が考えなければいけないことです。ここにおられる多くの方は「イエス・キリストは私にとって『救い主』です。」と言われることと思います。でも、どうしてそのように言えますか？

本当にそのように言えますか？どうして「さばき主」ではないと言えますか？そのことをしっかりと考えて、それに対して明確な答えをもっていますか？

イエスが救い主であるなら、あなたは救われる者です。また、イエスがさばき主であるなら、あなたはさばかれる者となります。続いて、イエスにあって救われる者とさばかれる者について見て行きます。

2. 救われる者とさばかれる者とは？

1) 救われる者、また、救われた者の特徴

これは、イエスによって目を開けられた盲人であった人の中に見ることが出来ます。

a) イエスへの求道者である

イエス・キリストを心から慕い求め、願い求める人です。35節、イエスは盲目であった人にこのように問われました。「あなたは人の子を信じますか。」と。それに対して彼が答えたことは、36節「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることができますように。」でした。特に、注目したいことばがあります。35節に「信じますか。」、36節に「信じる」とある「信じる」ということばです。これは「何となく良さそうだから信じよう」というような簡単な軽い意味ではありません。ここで使われている「信じる」ということばをギリシャ語の辞書で見るとこのように記されています。「人格的信頼を全面的にかけて投入する、信じ込む、頼み切る、自分自身をゆだねて服する。その人の全人格のすべてを信頼して、全面的に信じる。信じるゆえに、その人に頼る。頼るゆえに、その人にゆだねる。」と。続けて、辞書にはこのように記されていました。「特に、自分への依存や自分の行為への信頼を捨てて、神から与えられた義であるキリストへの信頼に全面的に切り替える。また、彼の中に信頼を置き切ってゆだね続ける。」と。

私たちは様々なときに行為をしますが、そのとき、自分には能力があるから力があるからこのことをすると、自分への依存があります。でも、ここで教えていることは、その自分への依存をいっさい捨ててしまうこと、そして、神から来られた「人の子」、救い主、メシヤである正しいお方への信頼に全面的に切り替えることです。自分への信頼はいっさいなく、すべてキリストに信頼する。それゆえに、イエスにゆだね続けるのです。これが35、36節で使われている「信じる」ということばの意味です。どうですか、皆さん？このように「信じますか？」と問われて、自分のものをいっさい捨ててイエスにすべての信頼をおけますか？この盲人はそのように信じるができるように、あなたが言われるような者でありたいと求めている、そのことを見ることができます。

そして、また、この盲目であった人は、イエスを求めるゆえに、イエスに対する認識が徐々に変わっていることを9章に見ることができます。

・「イエスという方」＝先ず、はじめはイエスは自分の目を開けてくれたすばらしいお方だという認識だけでした。9：11「彼は答えた。「イエスという方が、泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい。』と私に言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」、「イエスという方」とあります。人です。

・「あの方」＝9：15「こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は言った。「あの方が私の目に泥を塗ってくださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。」ここでは「あの方」とあり、つまり、人です。

・「あの方は預言者です」＝9：17「そこで彼らはもう一度、盲人に言った。「あの方が目をあけてくれたことで、あの人を何だと思っているのか。」彼は言った。「あの方は預言者です。」、神のことばを私たちに伝えてくれる、そんなお方だと認識が変わってゆきます。

・「神から出ておられる」＝9：32－33「盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。：33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずです。」と、「あの方が神から出ておられる」という認識になりました。このような不思議なわざは神から出たものでなければできないと。

それゆえに、34節に「彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。」とあり、35節にも「彼を追放した」とあり、彼は宮から放り出されることになるのです。今で言うなら、村八分のような状態です。この世的には最低の状況に置かれてしまったのです。だれとも話すことができない、交わることができないわけです。そのような中でイエスは「彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」と問われます。目を開けてくれた方を神と認めたために村八分になってしまったのです。でも、彼は「その方のことを詳しくは知りませんが、その方を信じるができるようになります。」と答えます。36節「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることができますように。」と、イエスを求めている姿を見ることができます。そして、イエスはこの盲目であった人に言われます。37節「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」と。あなたはもうすでにあなたの目を開けた方、あなたが求めている「神から出た

方」、救い主を見ているのです。あなたと話しているこのわたしがそのものです。

b) イエス・キリストを信仰する者

それを聞いたとき彼は、38節「主よ。私は信じます。」と言いました。自分の目を開けてくれた方、今私が話しているこの方が「救い主、主権者、神」であると。確かに、この世的には今は最悪の状況ですが、「私はあなたを信じます」と言うのです。イエスにあって救われる者の特徴の二つ目は「信仰」です。イエスへの信仰者です。「私は信じます。」とどうしてすぐに言えたのでしょうか？それは求めていた方がだれかが分かったからです。ですから、そこに何の躊躇、ためらいもなく「信じます」と宣言しているのです。この信仰こそが人を救うものです。ヨハネ3：16のみことばは皆さんはよくご存じです。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」、イエスがこの世に来られたのは、御子、人の子であり、救い主であり、神である方を信じる者がだれひとりとして滅びることがなく、永遠のいのちをもつためであるということです。この信仰こそがあなたに救いをもたらすものです。

だから、先ほど見た3：17ではこのように言っているのです。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」と、つまり、永遠のいのちを与える御子によってあなたが救われるためだということです。そして、このもと盲人は「主よ。私は信じます。」と告白した後、ある行動を取っています。

c) イエスを拝した

38節の後半に「そして彼はイエスを拝した。」とあります。つまり、イエスを礼拝したのです。これがイエスを信じて救われた者の特徴です。「拝した。」ということばは、同じヨハネ4章でイエスは繰り返して用いて、礼拝とはどのようなものを教えておられます。イエスがサマリヤを通られたとき、井戸のかたわらでサマリヤの女性と会話をされたときのことです。4：19－24を見ましょう。「女は言った。「先生。あなたは預言者だと思えます。：20 私たちの先祖は、この山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」：21 イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。：22 救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。：23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。：24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」とあります。イエスは礼拝とはどのようなものを教えておられます。簡単にまとめるなら、礼拝は場所や時間に制限されるものでは決してないこと、また、表面的な儀式を行なうものでもない、礼拝は神を正しく知って、心から神が求めておられる礼拝をささげることと、そのようにイエスはサマリヤの女に教えられたのです。信じた者、救われた者は礼拝する者となったのです。この盲人だった人はすぐにイエスを拝した、礼拝したのです。

イエスにあって救われる者、それはイエスを心から求めている者であり、求めるゆえにイエスを信じる者です。イエスを信じていると言われる皆さん、あなたはこのイエスを礼拝していますか？ある人は「今、ここで礼拝しています」と言われるでしょう。確かに、礼拝に参加してともに礼拝をささげています。でも、イエスが教えられた礼拝を考えたとき、それはいつでもどこでもイエスが願っておられる方法で、イエスを礼拝することです。救い主であり主権者であるイエスを信じ信頼しゆだねるゆえに、そこから生まれるものがイエスへの礼拝の思いです。完全に自分をゆだねるゆえに、いつでもどこでも、そのゆだねた方を拝する、それが救われた者の特徴です。そこで考えなければいけないことは私は救われた者であるかどうかです。たとえば、私はイエスを信じたいです、信じますと言っても、その心のうちにイエスを拝したいという思いがないなら、礼拝しようとしなければ、それは本物の信仰ではないかもしれません。この部分は信じるけれど他のところは信じませんというような自分勝手な信仰かもしれません。でも、先ほどから見てるように、信仰とはイエスのすべて、全人格を受け入れ信じることです。あなたは救われた者ですか？もし、そうでなければ、あなたは「さばかれる者」です。なぜなら、イエスは救い主であると同時に、さばき主でもあるからです。

2) さばかれる者の特徴

a) 高慢で自分は正しい、自分は問題がないとする人

39節「そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」、さばきのために来た理由が言われています。ここにある「目の見えない者」「見える者」とは、実際の視力のことでなく、霊的な視力のことです。すなわち、神についての教え、神がどのような方かということへの理解力です。「目の見えない者」は霊的な視力がないために、自分は不十分である、神の前に愚かで罪人であると考えます。そして、救いが必要だとし、イエス・キリストのもとへ行きます。目が見えるようになる、つまり、信じることができるのです。

そのような人を表わすわけです。次に、「見える者」とは反対に霊的視力が十分備わっている、自分は正しい者である、私はよく分かっている、よく実践していると考えer人です。そのように考えるから自分は完全だ、正しいとします。だから、救いは必要と思いません。イエスのもとに来ようとはしません。つまり、非常に高慢な者と言えます。

パウロは当時のユダヤ人に対して、このように述べています。ローマ2：17－21「もし、あなたが自分をユダヤ人となえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、：18 みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわきまえ、：19、20 また、知識と真理の具体的な形として律法を持っているため、盲人の案内人、やみの中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だと自任しているのなら、：21 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。」、つまり、当時の特に律法学者、パリサイ人たちは自分たちは律法をよく知っている、神のみこころは十分知っている、だから、知らない人たちを教え、その人たちの導き手であると自任している。それなら、どうして自分はそのように行なわないのか、「盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。」とありますが、実際に当時の律法学者やパリサイ人はそのような者であったとパウロは言うのです。律法を理解している、霊的視力があると言うなら、そして、そのことを教えているなら、自分自身がそのように行ないなさいとパウロは言います。当時のこの人たちは実際にそのことを行なっていない、不十分な者だと言うわけです。

このイエスのことばを聞いたパリサイ人たちはどのような反応をしたのか？40節「パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私達も盲目なのですか。」と、救いを得ていない不十分な者と言うのですか？と言うのです。ここで見ていただきたいことばは「私達も」です。すでに、パリサイ人たちは盲目な人たちがだれであるかを認識していました。一般大衆のことを思っていたのです。自分たちは律法をしっかりと学び実践しているけれど、民衆は何も知らないし何も行なっていない、そんな人たちを同じと言うのか？と問うているのです。確かに、このように聞いているのですが、パリサイ人たちにはすでに答えがあるわけです。「私達たちは盲目ではない！」という高慢な思い、正しく間違っただけなど何もないと、そのような思いがあったのです。

そのことをよく分かっておられたイエスはこのように答えておられます。41節「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私達たちは目が見える。』と言っています。」、「私達たちは霊的視力をもっているから間違っただけではない」と自負している彼らの思いを指摘されたのです。

b) 罪の解決がされない

それゆえに、救いを求めようとしない、信じようとしない彼らの罪の解決はなされないと言われます。これがイエスにあってさばかれる者の二つ目の特徴です。41節の最後に「あなたがたの罪は残るのです。」と記されています。救いを求めないゆえに、その罪は残ると言うのです。イエスは「種まきのたとえ」でこのように言われました。マタイの福音書13章13－15節「わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。：14 こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。：15 この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』と。確かに、見て聞いて知っているかもしれない、しかし、それを本当に理解することはない、「悟ることもしない」と言うのです。イエスに「いやされることのない」、つまり、救いを得ることがない、罪が残るということです。

この後半で、自分は正しい、問題はないとするなら、その人はさばかれる者であると教えます。もし、あなたがそのようなら、イエスを信じること、救いが必要です。でも、私は信じている、救われている、自分は正しい、大丈夫としているなら、礼拝をしても、それは正しい歩みではありません。なぜなら、自分に頼ってイエスに頼ることがないからです。イエスを信じるとは、イエスにすべてをゆだねて服従することです。もし、高慢になっているなら、信じる者になりなさいと言われるのです。

最後に、もう一度、あなたにとってイエス・キリストは救い主ですか？それともさばき主ですか？どちらかでしかないのです。イエスが望んでおられることは、すべての人がイエスにあって救われた者となることです。